院に棄てられた。ふたりが引っ越したのは同年の春だから、フィリップス＝メッツが主張するように子供が春に生まれたとしたら、かなりあわただしい。フェルマーニ兄弟がいうように秋に生まれたなら、そのほうが自然ではないだろうか。

フェルマーニ兄弟は、女児の娘、つまり自分たちの祖母にあたる女性から、彼女の母、つまり彼らの曾祖母が、ヴェルディとジュゼッピーナの娘であり、ジュゼッピーナがたびたび娘を訪ねてきたという話を聞かされて育った。女児は「ルイジア・フィアンドリーニ Luisia Fiandrini」と名付けられたが、「ルイジア」は、子供の誕生の三ヶ月半ほど前に世を去ったヴェルディの母親のファーストネームである（姓の「フィアンドリーニ」は、ジュゼッピーナの父親である作曲家フェリチアーノ・ストレッポーニと同世代の作曲家、ベネデット・クレメンス・フィアンドリーニからとられたのではないかと推測されている）。

ヴェルディとジュゼッピーナの「娘」ルイジア・フィアンドリーニ

自らの出自を明かした『ジュゼッペ・ヴェルディとフェッラーラの棄て子』を手にするシモーネ・フェルマーニ氏

成人したフェルマーニ兄弟が、改めて自分たちの出自に関心を持ったきっかけは、前述したフィリップス＝メッツやセルヴァディオの著書である。兄弟は、彼女たちの記述で、ヴェルディとジュゼッピーナの子供が「チレッリ」という一族の庇護を受けて成長したことに注目した。なぜならジュゼッピーナの最初の子供にあたる男の子は、彼女のマネージャーだったカミッロ・チレッリとのあいだの子供であり、チレッリはジュゼッピーナとともに、里子に出されたこの男児の面倒を間接的に見ているのだ。一方で、その後ジュゼッピーナが産んだふたりの女児（それ以外にも死産で生まれた女児がひとりいることが確認されている）に関しては父親が不明であり、ジュゼッピーナはほとんど面倒を見なかった。長男と女児たちの運命の落差は、子供の父親の落差——それなりの力のある男性の子供か、父親が分からないか——と関係しているのではないだろうか。仮にヴェルディとジュゼッピーナのあいだに子供ができたとしたら、その処遇を、かつて同じ問題に直面した男性であるチレッリに頼んでも、おかしくはない。

実はルイジアが棄てられた孤児院は、チレッリの一族で、フェッラーラの判事兼公証人であるジュゼッペ・チレッリの家のすぐそばにあった。フェルマーニ兄弟は、ジュゼッピーナはジュゼッペ・チレッリの家で出産し、赤子をすぐ孤児院に棄てたのではないかと推測している。赤ん坊は棄てられた直後に、近所の助産婦に預けられた。その後もこの女児